

社会的な見方・考え方とは

～小学校社会科における社会的事象の見方・考え方の一考察～

Social perspective/way of thinking

A Study of Perspective and Approach to Social Events in Elementary School Social Studies'

山田 均

Hitoshi YAMADA

要旨

次期学習指導要領では、各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方として「見方・考え方」が明示された。このことにより、各教科等の目標や内容を資質・能力の三つの柱である「知識、技能」、「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」に基づいて再整理され、資質・能力が明確になった。小学校社会科においては「社会的事象の見方・考え方」を働かせて、公民としての資質・能力の基礎を養うこととされている。

そこで、実際の社会科の実践を通して、児童がどのように「社会的事象の見方・考え方」を働かせ、社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考察し、社会に見られる課題や社会への関わり方を選択・判断することができるのか考察する。

キーワード：(小学校社会科教育) (社会的事象の見方・考え方) (ねり合い)

I はじめに

平成 29 年 3 月に次期学習指導要領が告示され、今年度からの移行措置を経て、平成 32 年度から完全実施される。「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、各教科特有の見方・考え方を働かせた学習を展開していくことや評価の観点の見直しもなされている。

小学校社会科改訂のポイントとしては、

- ・世界の国々との関わり、政治の働きへの関心を高めること
- ・自然災害時における地方公共団体の働きや地域の人々の工夫・努力等に関する指導の充実を図ること
- ・少子高齢化等による地域社会の変化や情報化に伴う生活や産業の変化に関する教育内容を見直すこと
- ・地図帳を第 3 学年から配布すること

等が挙げられる。

これらのポイントから見えてくることは、現代的な諸課題を踏まえ、社会に見られる課題を把握して、社会の発展を考えることや持続可能な社会づくりについて考える学習の充実を図ることを重視しているということである。

II 各教科等の特質に応じた「見方・考え方」とは

次期学習指導要領では、深い学びの鍵となる「見方・考え方」が、各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方として明示された。このことによって、各教科等の役割がより明確になったと言えるであろう。

「見方・考え方」という言葉は、これまでも学習指導要領で用いられることはあった。しかし、それは一部の教

科等でのみ使われており、多くの場合、その意味を明確に示すこともなかった。次期学習指導要領においては、各教科等の目標や内容を資質・能力の三つの柱（「知識、技能」、「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」）に基づいて再整理し、「見方・考え方」を改めて明示することにより、資質・能力が明確になった。「深い学び」の実現に大きく関わるのが「見方・考え方」である。極論すれば、「見方・考え方」を働かせた学びが実現できれば、主体的・対話的で深い学びが実践できたということになる。

各教科等の特質に応じた見方・考え方のイメージを改めて示しておく。

言葉による見方・考え方	自分の思いや考えを深めるため、対象と言葉、言葉と言葉の関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉え、その関係性を問い直して意味付けること。
社会的事象の地理的な見方・考え方	社会的事象を、位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付けること。
社会的事象の歴史的な見方・考え方	社会的事象を、時期、推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にしたり、事象同士を因果関係などで関連付けたりすること。
現代社会の見方・考え方	社会的事象を、政治、法、経済などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え、よりよい社会の構築に向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けること。
数学的な見方・考え方	事象を、数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、論理的、統合的・発展的に考えること。
理科の見方・考え方	自然の事物・現象を、質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点で捉え、比較したり、関係付けたりするなどの科学的に探究する方法を用いて考えること。
音楽的な見方・考え方	音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などと関連付けること。
造形的な見方・考え方	感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値をつくりだすこと。
体育の見方・考え方	運動やスポーツを、その価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自己の適性等に応じた『する・みる・支える・知る』の多様な関わり方と関連付けること。
保健の見方・考え方	個人及び社会生活における課題や情報を、健康や安全に関する原則や概念に着目して捉え、疾病等のリスクの軽減や生活の質の向上、健康を支える環境づくりと関連付けること。
技術の見方・考え方	生活や社会における事象を、技術との関わりの視点で捉え、社会からの要求、安全性、環境負荷や経済性等に着目して技術を最適化すること。
生活の営みに係る見方・考え方	家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫すること。

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方	外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、目的・場面・状況等に応じて、情報や自分の考えなどを形成、整理、再構築すること。
道徳科における見方・考え方	様々な事象を道徳的諸価値をもとに自己との関わりで広い視野から多面的・多角的に捉え、自己の人間としての生き方について考えること。
探究的な見方・考え方	各教科等における見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会や実生活の文脈や自己の生き方と関連付けて問い続けること。
集団や社会の形成者としての見方・考え方	各教科等における見方・考え方を総合的に活用して、集団や社会における問題を捉え、よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己の実現と関連付けること。

(中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」別紙1¹⁾)

子どもたちは、各教科等における習得・活用・探究という学びの過程で、各教科等の学びで習得した知識や技能を活用し、問いを見出して解決したり、自分の考えを形成し表現したり、思いをもとに意味や価値を生み出したりする。

このような学びの過程で、“どのような視点で事物・事象を捉え、どのように思考していくのか”という、事物・事象を捉える視点や考え方も鍛えられていく。例えば、算数・数学科においては、事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、論理的、統一的・発展的に考えること、国語科においては、対象と言葉、言葉と言葉の関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉え、その関係性を問い直して意味付けることなどである。

このような「見方・考え方」は、各教科等の学習の中で活用することにとどまらない。大人になって生活する際に必要となるものである。例えば、私たちが職業に就き、業務を遂行する際には、データを基に考えたり、企画を図や言葉などで表現したりする。このような営みを行っているときには、学校教育で学び、身に付けた「数学的な見方・考え方」や「言葉による見方・考え方」、「社会的な見方・考え方」を働かせているのである。すなわち、私たちは社会生活を送るときには、様々な事物・事象を理解し、思考し、働きかけて、社会に参画し、自らの人生を創出しているのである。この営みが「見方・考え方」を活用していることなのである。

こうした「見方・考え方」を支えているのは、各教科等の学習において習得した知識・技能であり、思考力・判断力・表現力である。知識が増え、技能が上達すれば、見方はより確かなものになっていく。また、思考力・判断力・表現力が深まり、人間性が耕されれば、考え方はより深まっていく。学びによって身に付けた資質・能力を、学習の場や生活の場で活かすものが「見方・考え方」である。言わば、資質・能力を具体的に活かすためのツールのようなものである。

Ⅲ 「社会的な見方・考え方を働かせる」とは

次期学習指導要領に示された各教科等の特質に応じた「見方・考え方」は、これまでの社会科教育における「見

方・考え方」の捉えとは明らかに異なるものである。社会科教育において「見方・考え方」は育てるものであり、「見方・考え方」を育てることが社会科教育の目的であったといっても過言ではないだろう。

次期学習指導要領改訂により示された「見方・考え方」の捉えの変容が、社会科教育に関係する者に与えたインパクトは大きいものがある。

例えば、2017（平成29）年10月に開催された全国社会科教育学会第66回研究大会では『見方・考え方』論で社会科は変わるのか？』というテーマでシンポジウムが開催されている。研究大会プログラムに示されたシンポジウムの趣旨は、「次期学習指導要領においては、社会科が育成すべき『資質・能力』－『知識・技能』『思考力・判断力・表現力等』『学びに向かう力、人間性』の3本柱で整理される－を育成する際の重要なポイントとして『社会的な見方・考え方』がある。『社会的な見方・考え方』はこれまで4観点で個々に捉えられてきた『資質・能力』を総合的に育成するための重要な概念として受け止められている。この『社会的な見方・考え方』については、社会科を学ぶ本質的意義を明確にするという肯定的な意見がある一方で、本当に教科の本質を問い直すものとなっているのか、という懐疑的な意見も見られる。では、次期学習指導要領の新機軸ともいえる『見方・考え方』は社会科の教科としての在り方を見直すものとなり得るのだろうか。本研究大会では、『見方・考え方』に関する多様な議論を通して、社会科の教科としての在り方を考え直す契機としたい。」²⁾である。

このシンポジウムでは、3本のレポートが報告され、その報告を基に「見方・考え方」について議論し、次期学習指導要領で示された「見方・考え方」が、社会科にどのような影響を与えるのかということ明らかにしようとするものであった。

このように、注目を集めている次期学習指導要領の「見方・考え方」である。「社会的な見方・考え方」について考察を加えていくこととする。

次期学習指導要領における小学校社会科の目標は次のように示されている。

第2節社会

第1 目標

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや働き、地域や我が国の歴史や伝統と文化を通して社会生活について理解するとともに、様々な資料や調査活動を通して情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする力、考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力を養う。
- (3) 社会的事象について、よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする態度を養うとともに、多角的な思

考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚、我が国の国土と歴史に対する愛情、我が国の将来を担う国民としての自覚、世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚などを養う。

(小学校学習指導要領〔平成29年告示〕³⁾ 文部科学省より)

『次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ』（第2部）中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会によると、目標の柱書にある「社会的な見方・考え方」とは、「小・中・高等学校の各『見方・考え方』を総称する呼称である。」⁴⁾ ことや「社会的な事象等の意味や意義、特色や相互の関連等を考察したり、社会に見られる課題を把握してその解決に向けて構想したりする際の『視点や方法』であり、小、中、高等学校と校種が上がるにつれて視点の質やそれを生かした問いの質が高まるものである。」⁴⁾ こと、「『社会的な見方・考え方』は、便宜上『思考力、判断力』の欄に示しているが、深い学びを実現するための思考力や判断力の育成や生きて働く知識の習得に不可欠であること、主体的に学習に取り組む態度や学習を通して涵養される自覚や愛情などにも作用することなどを踏まえると、資質・能力全体の中核であることに留意する必要がある。」⁴⁾ ことなどが示されている。

小学校においては、「社会的な事象の見方・考え方」の視点として、①位置や空間的な広がり、②時期や時間の経過、③事象や人々の相互関係の3点が示されている。

考えられる視点例⁴⁾として、

- ①位置や空間的な広がり：地理的位置、分布、地形、環境、気候、範囲、地域、構成、自然条件、社会的条件、土地利用など
- ②時期や時間の経過の視点：時代、起源、由来、背景、変化、発展、継承、維持、向上、計画、持続可能性など
- ③事象や人々の相互関係の視点：工夫、努力、願い、業績、働き、つながり、関わり、仕組み、協力、連携、対策・事業、役割、影響、多様性と共生（共に生きる）など


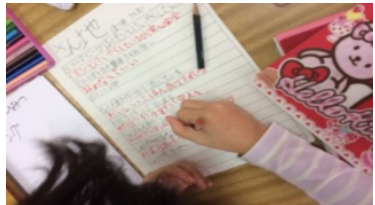
が挙げられている。これらの視点に着目して、社会的な事象を捉え、比較・分類したり総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりして考えるというように「見方・考え方」を働かせ、社会的な事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考察する力（考察）や社会に見られる課題について、社会への関わり方を選択・判断する力（構想）を育てていくのである。



IV 「社会的な見方・考え方を働かせる」とは

小学校社会科において、「社会的な事象、の見方・考え方」を働かせ、社会的な事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考察し、社会に見られる課題について、社会への関わり方を選択・判断することが求められている。そこで、奈良市立富雄北小学校 田中雅代教諭の実践「はたらく人とわたしたちの暮らし」をもとにこのことについて考察してみることにする。

この実践は「自らの学びを深め、よりよい社会の形成に参画する力を育てる社会科学習 一人の営みに学び、ねり合う学習を通して」の大会主題の下、開催された「第55回全国小学校社会科研究協議会研究大会 奈良大会」で発表されたものである。実践の概要は以下の表に示すとおりである。

展開の概要（全17時間）

	学習活動	指導上の留意点
み つ め る ③	○ふだんの買い物について振り返ろう① ② ○お家の人がイオンに行くのはどうして だろう③	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物調べの結果をグラフに集計させ、どのお店、どのくらいの回数買い物をするのかまとめさせる。 ・なぜそのお店に買い物に行くのか消費者側の意見をインタビューさせる。 ・予想したものを分類し、見学の際の視点にする。
	<p>たくさんのお客さんにきてもらうためにお店ではどんな工夫をしているのだろう。</p>	
し ら べ る ⑩	○イオン見学へ行こう④⑤ ○イオンについてまとめよう⑥⑦⑧ ⑩ ・イオン見学してわかったことからお店の よさや工夫について視点グループごと にまとめて発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・お家の人がイオンを選ぶ理由が本当に正しいのか確かめさせる。(例 新鮮とはどれぐらいの鮮度のものをいうのか) ・販売者側の工夫を見つけるために、前時の予想を基にした「品物の産地」、「値段やサービス」、「品物の種類や数」、「品質と安全性」、「買い物がしやすくなる店内の工夫」の5つの視点に分かれて、観察やインタビューをさせる。(学習グループの中でどの視点で見てくるか担当を決めさせる。) ・視点ごとに分かれて、お店の方やお客さんにインタビューをしたり店内を見たりして分かったことを絵や文でポスターにまとめさせる。 ・消費者のニーズと販売者の工夫を関連させながら考えさせる。
	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: fit-content;"> <ul style="list-style-type: none"> ・タスマニアビーフはイオンと契約している。→安心安全 ・トマトバイキングがある。→その日使う分だけ買える。 <p>お客さんが好きな大きさ・形を選べる。</p> </div>	
	○スーパーこばやし見学へ行こう⑨⑩ ○スーパーこばやしについてまとめよう ⑪⑫⑬	<ul style="list-style-type: none"> ・学習グループごとに行動するが、イオン見学と同じ視点を持って見学させる。 ・イオン同様、視点ごとに分かれて、分かったことを絵や文でポスターにまとめさせる。 ・販売者側の工夫には「たくさん売するための工夫」、「買い物しやすい工夫」、「よい品物売る工夫」、「お客さんを喜ばせる工夫」があることに気付かせる。
		

ふ か め る ①	○これまで学習したことを基もとにおすす めのお店を紹介しよう⑭	・「3人のお客さんにとって買い物しやすいのはどちらのお店？」か、これまでのお店の工夫をもとにそれぞれのターゲットに合った買い物しやすいお店はイオンかスーパーこばやしか話し合わせる。	
ひ ろ げ る ③	○「西大寺北小校区100人に聞きました。こんなお店があったらいいな」を考える。⑮⑯⑰ ・アンケートをもとに特色あるお店づくりを考える。	・クラスで100名分のアンケート集めて西大寺北小校区のお客さんのニーズを調査させ集計する。 ・たくさんのお客さんが来るように、3つのアイテム(工夫)を選び個性あるお店を作らせる。 ※アイテム.....ポイントカード、広い駐車場、商品の新鮮さ、毎日特売 等 ・後日、保護者の方にお店を紹介し評価してもらう。	

田中教諭は、本実践で目指す児童像を「消費者である家族への聞き取りや販売者である商店への見学を通して、人の営みに学び、獲得した知識をもとに、社会的な事象に対する見方・考え方を働かせてねり合うことで、消費活動を自分事として判断できる児童」と設定し、実践を行っている。そして、研究の視点の一つとして、奈良県小学校教科等研究会社会科部会が提案している「ねり合い」を設定している。以下、奈良県小学校教科等研究会社会科部会の「ねり合い」についての定義を示す。

- ・児童が、調べたことや表現したことなど根拠に基づいて、社会的な事象の特色や相互の関連について自分の考えを表現、発表、補足などをして
- ・他の児童の発表、意見等を聞き、質問しあったり、反論、補足説明をしたりして、双方向にやりとりする場面を設けることにより
- ・それまでになかった社会的な見方・考え方に気付いたり、自身の考え方がより確かなものになったりして
- ・社会的な事象の仕組みや意味、価値などをより確かに理解し、社会的な見方・考え方を深め合う学習

この定義から分かることは、「ねり合い」という学習活動は、主体的、対話的で深い学びを行うことにつながっているということである。

田中教諭は、学習対象として駅前にある大型総合スーパーマーケットと住宅地にある個人経営の食料品店を設定し、それぞれの店の工夫や努力を調べ、店の特徴を明らかにしていった。そして、「ねり合い」の学習において、児童がそれまでの学習で形成してきた、商店ではたらく人の工夫や努力という販売者に対する見方・考え方と店を利用している家族の工夫や願いという消費者に対する見方・考え方を働かせるという「ねり合い」の場面を設定している。

「ねり合い」の場面では「3人のお客さんにとって買い物しやすいのはどちらのお店？」という学習問題を設定した。具体的には、児童はこれまでの学習で獲得した大型スーパーと個人商店のそれぞれの品ぞろえや営業時間、立地などの特徴を踏まえ、それぞれ、生活の状況が異なる3人のお客のニーズに合ったお店を選択するという学習をグループ内の討議を行った。グループ内で、児童一人一人がそれぞれのお客にとって買い物をしやすいお店を考え、選択し、その結果を出し合い、議論し、グループとしてお薦めをするという学習であった。

田中教諭は、この実践発表のまとめにおいて、「ねり合いの場面で(店を)決められなかった学習グループは2班

あった。しかし、これは個人個人の考えに自信を持って臨むことができたからである。振り返りには『話し合いは少し難しかったです。意見が分かれたり納得できない人がいたりしたからです。』とあった。視点グループでお店の工夫がお客様にどうよいかをしっかりと話し合えたので、学習グループに戻ってもこれまでの時間に培った自分の考えに自信を持ってたと考えられる。」と記述している。商店での販売活動、消費生活という社会的事象に対する見方・考え方を働かせて、学習に取り組んだことがこの記述から読み取ることができる。

V 終わりに

次期学習指導要領の方向性を決定づけている中央教育審議会答申『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)』(平成29年3月)では、『「見方・考え方」を支えているのは、各教科等の学習において身に付けた資質・能力の三つの柱である。各教科等で身に付けた知識・技能を活用したり、思考力・判断力・表現力等や学びに向かう力・人間性等を發揮させたりして、学習の対象となる物事を捉え思考することにより、各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方も、豊かで確かなものになっていく。物事を理解するために考えたり、具体的な課題について探究したりするに当たって、思考や探究に必要な道具や手段として資質・能力の三つの柱が活用・發揮され、その過程で鍛えられていくのが「見方・考え方」であるといえよう。』⁵⁾ という記述がある。

本稿で示した田中教諭の実践の中で見えてくる児童の姿がこのことを示している。田中実践の児童たちは、追究が広がり、深まるにつれて、学習対象である店の特色や店と消費者との関係、そして、販売活動と消費行動に込められている意味を販売側、消費側というように視点を変えて考えていっている。そして、「ねり合い」場面では、これまでの学習で得た知識や考えを総動員して、選択・判断をしている。この選択・判断では、正解を求めているのではなく、納得解を求めている。結果、グループによっては答えを出せないという結果も生じている。まさに、「見方・考え方」は、学ぶことによって培われている。

社会科教育が目指している「見方・考え方」は、答えは正しいか間違っているかの二者択一ではないということや答えは教科書や教員が持っているのではないということ。さらには、一つの社会的事象についても異なった面があることや立場が異なると評価が異なること。時には複数の意見の中から、ある考えを選ばなければならないことがあること。だからこそ、教科書や教員に教えてもらったことを記憶する学習ではなく、何が正しいかを問題意識をもって、追究し、判断し、その段階での自分自身の考えを確立させていくことの大切さを改めて考えさせられた。

引用文献

- 1) 中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」別紙1
- 2) 全国社会科教育学会 第66回 全国研究大会プログラム
- 3) 文部科学省『小学校学習指導要領 社会』(2017年)
- 4) 中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」(第2部)
- 5) 中央教育審議会答申『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)』(2017年)

参考文献

- 1) 北俊夫「生きる力を育てる社会科授業」明治図書（1996年5月）
- 2) 中央教育審議会答申『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について（答申）』2008年1月
- 3) 中央教育審議会答申『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）』（2017年3月）
- 4) 文部科学省『小学校学習指導要領 社会』（2017年）
- 5) 文部科学省『小学校学習指導要領解説 社会編』（2017年）